

岩崎城だより

No.74

2026/10/1

館長のおはなし



クリケットを
する丹羽氏次

今年は様々なスポーツの大会が行われた年でした。2月には冬季オリンピック、3月にはワールドベースボールクラシック(WBC)、6月にはFIFAワールドカップ。そして9月19日よりアジア競技大会が開催され、日進市では口論義運動公園を会場にクリケットの試合が行われています。今回はスポーツの歴史を少しご紹介したいと思います。

明治時代、外国人教師や外国から帰国した人々により野球やテニス、サッカーなどが日本に移入。教育の一環として採用され、都市部を中心に普及していきます。

「耀」
いそはたみか

大正12年に名古屋で発足した名古屋体育協会の昭和3年段階での関係領域は「陸上、水上、野球、庭卓球(テニス、卓球)、蹴球(サッカー)、藍排球(バスケットボール、バレーボール)、相撲、武道、乗馬、山岳」に渡り、多くのスポーツが戦前に普及していたことが窺えます。

日進における戦前のスポーツの記録というのはほとんどありませんが、日進村報第2号(大正15年7月発行)に「我が校職員は毎週1回適当の日を定めて運動日とし、バレーボール、バスケットボール、テニス等に流汗淋漓眞に澁刺たるの意気を示してゐる」と日進尋常高等小学校の職員がスポーツで汗を流していたことが書かれています。

10月12日はスポーツの日。意識して運動してみるのがいいかもしれませんね。



イベント情報

岩崎城歴史記念館 歴史講座

各回先着 30 名(1 回ごとに募集)、参加無料

会場:岩崎城歴史記念館
2 階。市内の方優先、
市外の方も参加可能。

【申込】

第 3 回 10 月 3 日(土)
9:00~、

第 4 回 12 月 1 日(火)
9:00~
岩崎城まで電話申込。

第 3 回 「日進と猿投窯」

講師:大西遼(愛知県陶
磁美術館 学芸員)

日時:10 月 25 日(日)
13:30~15:00

愛知県陶磁美術館の大西氏にお越しいただき、日進の古代から中世の歴史として重要な猿投窯の歴史、日進の焼き物の特徴などについて紹介いただきます。

第 4 回 「豊明と日進 ~桶狭間の戦い」

講師:岸田裕夫
(豊明市学芸員)

日時:12 月 19 日(土)
13:30~15:00

豊明市学芸員の岸田氏にお越しいただき、愛知県三大合戦の 1 つである桶狭間の戦いについてご紹介いただき、日進との関連も合わせてお話いただきます。

岩崎城刀劇隊による 剣術道場

10 月 11 日(日)
11:00~(約 30 分程度)

岩崎城刀劇隊が剣術の指南をいたします。
初めての方でも、刀の扱い方からお教えします！
ぜひご参加ください！



「貝合わせ教室」

11 月 3 日(火・祝)
14:00~16:00
申込:10 月 10 日(土)~

平安時代の遊び道具として知られている貝合わせ。現在では季節の装飾として楽しまれています。歴史を学びながらオリジナルの貝合わせを作ってみましょう。



「岩崎城だより」

発行日 2026 年 10 月 1 日 (年 4 回発行)

編集・発行 岩崎城歴史記念館

〒470-0131

日進市岩崎町市場 67 番地

Tel 0561-73-8825

Fax 0561-74-0046

<http://www.mf.ccnw.ne.jp/iwasakijo>



◆開館時間

9:00~17:00

◆休館日

月曜日

(祝日の場合は開館)

12 月 28 日~1 月 4 日





第40回日進市菊花大会

★今年は節目の40回目
★大小色とりどりの菊の花
★貝合わせ講座は11月3日
★和のコンサートは11月8日
★キッチンカー、おもてなし来城

【期間】 10月31日(土) 11月15日(日)
9時~16時30分 観覧無料



岩崎城 冬の企画展 「広ク告ゲル~日進と広告~」

毎日見ない日はない広告。昔はどんな広告を人々は見ていたのでしょうか。旧市川家住宅に残る資料を中心に広告の歴史、日進で見たことのできた広告を紹介します。

■展示期間
12月12日(土)~1月17日(日)

■展示場所
岩崎城歴史記念館 2階

■開館時間
9:00~17:00

■観覧料
無料




にわさきくん おもてなし

【出陣日】

- ◆10月12日(月・祝)
- ◆11月1日(日)
- ◆12月6日(日)

せつしゃも菊花大会に出陣するのだ!

時間は11:00~/14:00~(約15分)
出陣日は1日中キャラ印を頒布します!
ぜひ会いに来てください♪



城主気分で花火鑑賞

今年のにっしん夢まつりは11月開催!毎年恒例! 岩崎城から花火を楽しみませんか?

★★★限定1組1万円★★★

日時:11月22日(日)

申込:往復はがきにて。
※11月1日(日)までに
岩崎城宛で投函してください
(当日消印有効)。その他、注意点ございます。
記入内容は岩崎城公式HPをご確認ください。



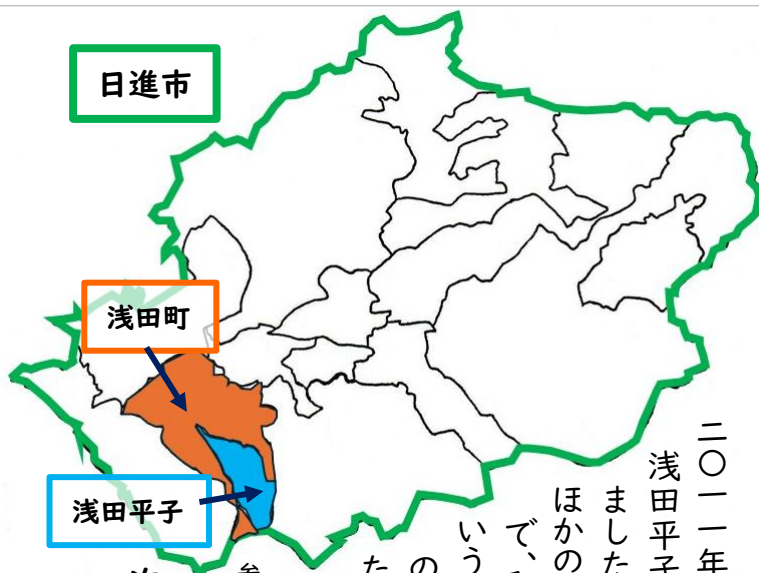
にっしんの地名

日進誕生120年を記念し、今の日進に残る地名の秘密を紐解いていきます

第三回 浅田の地名

浅田という地名が初めて歴史資料に書かれるのは赤池の地名も登場した、天文二十一年十月四日の『賢秀檀那注文』（加賀国の白山信仰に関わる資料）に「尾州八事迫大聖寺先達所事」（先達とは参詣者を道案内する人のこと）として「浅田」と書かれています。

浅田の地名の由来としては「極めての薄地にて、近辺第一の卑損地なればいふべし」と『尾張地名考』には書かれています。深田に対する浅田という説や麻田であったのが浅田になったという説もあります。



二〇一一年に浅田町の一部が浅田平子一〜三丁目となりました。平子は日進市内ほかの地域にもある地名で、ひらく、切り開くという意味があります。このことから、開墾された土地であると考えられます。

参考：日進市教育委員会
一九八九年「日進町の地名」

次回は第四回
浅田の小字
です。

収蔵品紹介

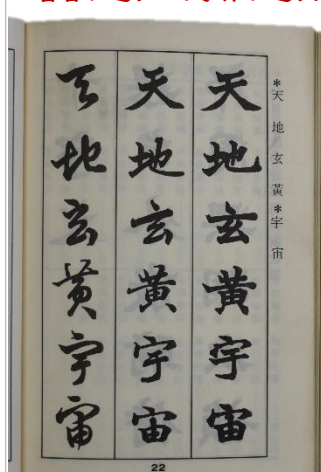
『三體千字文』

明治四十一年発行

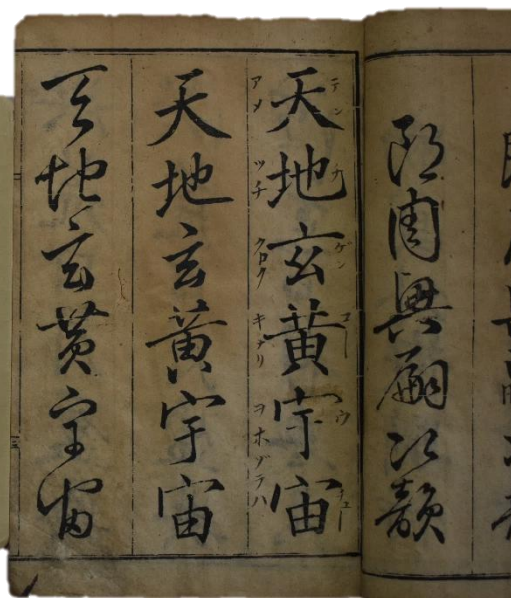
「千字文」とは子どもに漢字

を教えるために使われた漢文の長い詩です。天文、地理、政治、経済、社会、歴史など様々なことを四字で一句とし、それが二五〇個あります。同じ字は出てこないで、これ一冊で千個の漢字を習うことができます。「三體」とは楷書、行書、草書の三つのことで、習う際により多くの書体がわかるようになっていきます。お手本の字を書いているのは書家の邨田海石です。明治前期の小学校に用いられた習字教科書の字は大体海石の書であるといわれています。天保七（一八三六）年に大坂で生まれ、江戸で書を学んだあと、大坂に書道の塾を開きました。また明治維新後には中国に渡り、帰国後、新たに設けた教授所で多くの門人を育成しました。明治四五（一九一二）年に亡くなりました。

同じ『三體千字文』でも著者が違うので字体が違う！



参考：昭和57年発行『三體千字文』日下部鳴鶴の書



邨田海石の書

